九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Genetic assessment of recurrent pancreatic high-risk lesions in the remnant pancreas: Metachronous multifocal lesion or local recurrence?

後藤, 佳登

https://hdl.handle.net/2324/2236124

出版情報：Kyushu University, 2018, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

氏　　名：後藤　佳登

論 文 名：Genetic assessment of recurrent pancreatic high-risk lesions in the remnant pancreas: Metachronous multifocal lesion or local recurrence?

（初回膵癌術後残膵癌の遺伝子学的検討　異時性多発膵癌なのか局所再発なのか？）

区　　分：甲

論　文　内　容　の　要　旨

背景：初回膵癌高リスク病変（通常型膵腺管癌もしくは上皮内癌．以下“膵癌”とする．）術後の残膵癌が異時性多発膵癌なのか局所再発なのかを診断することは困難な場合が多い．本研究は遺伝子学的解析を用いて残膵癌の分類を試みることを目的とした．

方法：残膵癌に対して根治的膵切除を行った 12 例の臨床病理学的項目を解析した．さらに膵癌を代表するの主要四遺伝子である *KRAS*, *TP53*, *CDKN2A*, *SMAD4* の遺伝子変異解析をシークエンス解析ならびに免疫染色による発現解析により行い，さらに膵癌に関連する遺伝子を標的とした次世代シークエンス解析（Next generation sequencing；NGS）を行った．

結果：4 例は初回病変と残膵癌の主要四遺伝子変異様式が同一であったが，残りの 8 例は異なる結果となり，前者 4 例が局所再発，後者 8 例が異時性多発膵癌と考えられた．残膵癌切除後の再発率および疾患特異的生存率は有意に異時性多発膵癌群で良好であった．異時性多発群と局所再発群で初回病変と残膵病変のターゲット NGS を行い，ファウ

ンダー変異の比較を行ったところ，局所再発群は初回病変と残膵病変のファウンダー変異が共通することが示された.

結語：遺伝子学的解析は残膵病変が異時性多発膵癌もしくは局所再発であるかを診断する一助となりうる.